

### 第3章. チューブ形式橋梁（桁橋）WG 目次

1. 背景と目的	3-1
2. 桁橋形式の定義および選定	3-3
2-1. 検討橋梁形式の提案と定義	3-3
2-2. 検討形式の選定	3-5
3. パイプチューブ形式の検討	3-7
3-1. 検討方針	3-7
3-2. リングダイア形式の選定	3-10
3-3. 適用可能支間長の検討	3-14
3-4. リングダイアの検討	3-23
3-5. 鋼管及びリングダイア剛結部の構造検討計算	3-33
3-6. 全体座屈に対する安全性の照査	3-39
3-7. 振動の照査（固有値解析）	3-41
4. ケーブルチューブ形式の検討	3-47
4-1. 検討方針	3-47
4-2. 適用可能支間長の検討	3-49
4-3. 設計条件（静的解析による概略設計）	3-53
4-4. 照査結果（静的解析による概略設計）	3-56
4-5. 振動の照査（固有値解析）	3-63
4-6. 水平方向の振動使用性に関する感度分析	3-69
4-7. 振動解析における参考資料	3-73
5. トラスチューブ形式の検討	3-75
5-1. 検討方針	3-75
5-2. 適用支間長の検討	3-79
5-3. トラス部材の検討	3-83
6. 景観検討	3-88
6-1. 景観検討の流れと決定事項	3-88
6-2. 各形式におけるパース図の作成	3-89
6-3. 動画における歩行者の視点検討（参考）	3-94
7. まとめ	3-95
7-1. 形式比較	3-95
7-2. パイプチューブ形式	3-99
7-3. ケーブルチューブ形式	3-99
7-4. トラスチューブ形式	3-100
8. 巻末資料	3-101
8-1. 論文発表	3-101